

Sho-Comi まんが アカデミア

達人に聞け!

まんがが上手になりたい! でも、作画にストーリーに演出…いきなり全てをアップデートするのは難しい。だったら、まずはひとつ自分の“武器”を手に入れよう! そのためのテクニックを、その道の達人であるまんが家先生に直撃インタビュー。月イチだけのスペシャル連載です!!

第15回 セリフの達人

杉しっぽ先生



[クズとケモ耳]

動物の耳を持つ社会最底辺の存在“ミミ付き”のメルを買った貴族の九歳。メルをメイドとして自分の側に置き、好きなように蹂躪しながら、なぜか日に日に心は惹かれていって…。究極の身分差ラブ。

今回の達人は、その類稀なセリフ力で独特の世界を創造し続ける杉しっぽ先生。現在Sho-ComiXにて絶賛連載中の「クズとケモ耳」でも、貴族のクズ男と底辺ケモ耳少女の切れ味鋭い掛け合いが人気を呼んでいます。豊富な語彙力でもって、時に詩的で時にむきだしセリフを紡ぎ出す杉先生ですが、驚くことに「特にいいセリフを書こうと意識しているわけではないので、達人と言われると恐縮です…」と無自覚の様子。しかし、セリフに対するご自身の考えを伺っていくと、徹底的なキャラの掘り下げと、自分自身に向き合う独自の哲学が見えてきました。センスだけに頼らない、達人のセリフ作りに迫ります!

その1 “掛け合い”こそがキャラクターを立たせる

セリフとモノロークの違いを意識しよう

「クズケモ」は“お互いを理解できないふたり”というのが根本にあるので、セリフとモノロークで役割を分け、ふたりの心の溝を明確にしています」と言う先生。テーマや関係性を浮き彫りにするためにも、セリフとモノロークの違いを意識することが重要です。

セリフ	相手に伝えたいこと、対立も覚悟で伝えたいこと
モノローク	相手に伝わらなくてもいいと思っていること、自分だけの身勝手な感情、理解されないという諦め

「側にすっ」というメル言葉に、無言ですが九歳のモノローク。メルへの強気な愛を口にしながら、内心は怯えとヘンシステイックな価値観に囚われているのがよくわかります。



▲「身勝手な発言がどんな結末を呼ぶか想像できないのがクズ」と先生。なりふり構わぬ上から目線のセリフに、どうしようもないクズさが滲み出ます。

その2 奇をてらうよりテーマに沿ったセリフを

「ありがちなセリフ」というと、とてもつまらないものに見えるが、杉先生は「ありがちでもいい」と言い切ります。たしかに「クズケモ」では、奇をてらったようなセリフは見受けられません。しかし「ひとつだけ意識しているのは、マイナスの感情を積み上げていく、ということ。九歳とメルはお互い傷つけ合ってその存在感を増す関係性なので、いわゆる少女まんがに「ありがち」なときめく言葉は使っていません」とのこと。物語のテーマとセリフがしっかりとリンクしてこそ、強く印象に残るセリフになると心得て。



その3 男性キャラのセリフも自分の言葉で

女性作家が男性のリアルな気持ちを知ることが難しいですが、杉先生曰く「自分で考えたキャラなので、必ずしもリアルな男性の気持ちを再現する必要はない」とのこと。それよりも大事なことは「想像で書かない」ことなんだとか。作家本人が思ってもいないこと、こういうものだろうと高を括って雑なセリフをキャラに言わせるのはNGです。「どんなキャラでも、価値観や考えなど自分の中から出てきたものを言葉にしてください。」



その4 自分と向き合うことでセリフは生まれる

杉先生がセリフを思いつくのは「日常生活の中で」だそう。「まんがとは関係ない悩みに対峙していたら、ある日セリフが浮かんでくるんです。悩むことによって自分の気持ちを徹底的に掘り下げて客観視していく作業なので、その中で生まれたことがセリフとして昇華するんだろな」と思っています。人には話さないといいのも私にとっては大事ですね。自分の中で考えを煮詰めていくことで、他者の介在しない純度100%の言葉になるので、「セリフは自身を投影する鏡。しっかりと自分と向き合ってください。」



▲偏見と差別に満ちた世界で、格差を超えて愛をつかんだ九歳のモノローク。先生の考えが投影された言葉は、重く、心に突き刺さる。

番外編

先生の推しセリフ

達人自ら「お気に入り♥」と思うセリフは…?

メルがクズな九歳をぶった切るセリフ No.1



「彰史様みたいな人がよかった…」

「クズは報いを受けねばならぬと思って描いています」

▲横暴に扱いながら好きだと言う九歳に、メルが放った一言。「この後メルは九歳の元を去るのですが、憔悴した九歳に彰史が「懲りて変わりなよ」と言います。それが全てです。ひどいことをした報いを、九歳は受けなければなりません。九歳の変化を促す、効果的な名セリフです。

一番お気に入りのセリフ

『どーでもいいんだ…』



「ふたりの関係性をしっかり表現できたと思います」

▲メルに結婚の承諾を得ようと頑張っていた九歳だが、戸籍を作って結婚してしまえばいいと決めた途端、メルの承諾を「どーでもいいんだよ、そんなの!」と言ってくる。対するメルの反応は…「私の気持ちなんてどーでもいいんだ、というドン引き&諦観ですよ。描き文字にしたことで、そういった感情がしっかり出たと思います。細部まで意識してこそキャラが生きる…セリフの力は無限大です。」

次回(23号)は 2022年 下半期総集編 お楽しみに!!!